貨幣制度史＋２割 UP の日本史

本プリントは、駿台予備校：塚原哲也＋鈴木先生の「日本史の論点」を編集して、石田が作成。早稲田大問題演習は初の試み。貨幣史を学習するなかで関連事項もマスターしてみよう！また大事なのは間違いやすい箇所をいかにカバーするか！である。そのため２割 UP の日本史を始めたい。

～江戸時代の貨幣制度を中世と対比せよ～

奈良時代

唐にならい律令国家の体制をととのえることと、宮都造営費用の支払いや造営に雇われた人々への支払いが目的であり。蓄銭叙位令を発したものの、京・畿内を中心とした地域の外では流通しなかった。（山川 39 ﾍﾟｰｼﾞ）。教科書に書いてあるとおりの答えである。稲や布を持った地方の人々が現在の奈良市内、東大寺南大門あたりは人で溢れていたんだろうな！と思う。

朝廷➡ **和同開珎** 708 に始まる **皇朝十二銭** を鋳造したが、律令制度の変質とともに **乾元大宝** を最後に朝廷による貨幣鋳造が途絶え、鎌倉幕府や室町幕府も貨幣を鋳造しなかった。当初は米や絹、布などが貨幣としての機能を果たしたものの、中国との貿易が活発化するなか、平安時代後期から鎌倉時代には➡ **宋銭** 。

鎌倉時代

宋貨幣経済沸騰 ➡日本に導入 ←〔 **後白河法皇** 〕+〔 **平清盛** 〕の平氏政権

VS

荘園制度　貴族　＋　寺社勢力　国際競争に適した産品ない坂東武者＝ **源氏**

貨幣経済の発展がもたらしたもの

背景➡農業生産力の拡大（これは農業の集約化です。技術や労働力を投入して、単位面積あたり収穫高の増加を図るということ）や手工業の発達により寺社の門前や交通の要地などに定期市（ **三斎市** ）が開かれるとともに、年貢の銭納化も進んで、交換手段としての貨幣の需要が高まっていた。さらに遠隔地間の取引には、膨大な量の銅銭の授受に代えて手形で代用する（ **為替** ）も使われるようになり、鎌倉時代には金融機関としての〔 **借上** 〕もあらわれた。

こうした生産や流通の拡大にともなう貨幣経済の発展は、➡ **分割相続** による➡ **所領の細分化** に加え、蒙古襲来の多大な軍事負担を強いられていた➡ **武士の窮乏化** をさらに進めていった。1297（永仁5）年、幕府の御家人の救済を目的に➡ **永仁の徳政令** を発し、その第2条で質入れや売却した御家人の所領の無償取り戻しを認め、さらに第3条では、御家人の金銭貸借に関する訴訟は受理しないと規定した。徳政とは仁政とか善政を意味するもので、為政者が天変地異などが起こる原因を自らの不徳と認識し、受刑者の減刑や生活困窮者の債務免除などを実施することであり、古代以来日本でも度々おこなわれてきた。この永仁の徳政令が発布されて以降、徳政といえば債務の放棄を意味するようになり、 **高利貸たちの社会への進出は、あらゆる階層の人々から徳政を求める声が高まっていった** 。

荘園農地をがっちり押さえている鎌倉幕府の **御家人** に対し、北条得宗家の私的使用人だった **御内人** は貨幣と商業を基盤に急速に勢力を拡大し、両者の内紛で鎌倉幕府はガタガタになっていく。

そこで登場したのが **後醍醐天皇** である。

２割 UP はここだ！

永仁の徳政令

北条貞時の得宗専制政治です。御家人の窮乏がはっきりしてきた時期。そこで出された永仁の徳政令。

やってみよう正誤問題。正解なら〇誤りなら誤りの箇所をアンダーラインして、正文を記せ。

	問題文	正誤
内容	①幕府は窮乏してゆく御家人を救済するために、所領の質入れを認めた永仁の徳政令を発布した。	
	②この法の目的は、売却された御家人領を有償で買い戻させることにあった。	
	③14 世紀に入ると、幕府は畿内の悪党を対象に永仁の徳政令を出した。	
	④この法令によれば、御家人が買得してから 20 年以上を経過した所領は、もとの持主に返却されないこととされた。	
	⑤御家人がそれまで売買・質入れした所領を、無償で返還させることなどを定めた永仁の徳政令を出した。	
	⑥この法（永仁の徳政令）が出されたのは、幕府が得宗専制政治を行っていた時期である。	

13 世紀後半に中国支配を進めた元（モンゴル帝国）とは、蒙古襲来にともなって軍事緊張が生じたにもかかわらず民間貿易は行われた。日宋・日元貿易では、➡ **陶磁器** や書画、書籍など唐物が大量にもたらされ、僧侶が盛んに往来するなどしたため、 **禅宗** を中心とする大陸文化が伝わった。また、 **宋銭** が大量に輸入されたため、日本国内では交換手段として貨幣＝（ **銅銭** ）を用いることが一般化し、年貢の **代銭納** が広まる

など、貨幣経済が浸透した。
頻出は…
鎌倉幕府による➡ 建長寺 船、室町幕府による後醍醐天皇の冥福を祈るために派遣された➡ 天龍寺 船など寺社の再建・造営費用を調達するため幕府が許可を与えて保護した貿易船も存在した。一方、対馬・壱岐・済州島などを拠点とした武装集団である倭寇が、朝鮮半島や中国の沿岸に出没し略奪を繰り返した。

室町時代には➡ 勘合貿易 によって 永楽通宝 など➡ 明銭 が輸入され、これら中国政府が鋳造・発行した➡ 銅銭 が貨幣、つまり商品の交換手段、年貢などを支払う手段、蓄財手段として用いられた。さらに悪銭ともよばれる、中国や日本で私的に鋳造された
➡ 私鋳銭 も出回り、規格や品質の異なる銅銭が混在して通用した。このため 15 世紀末以降、商取引に際して悪銭の受け取りを拒否する➡ 撰銭 が横行して円滑な貨幣流通が阻害されたものの、良質な銅銭の不足にともなって悪銭が広く流通し、九州では 洪武通宝 、東国では 永楽通宝 がおもに流通したように、取引の中心となる貨幣は地域性が顕著となった。さらに戦国時代には武田氏のように甲州金などが鋳造され、高額の取引に利用された。

朝鮮との貿易

朝鮮とは、日本国王（将軍）が対等な国交を結んで通交する一方、**九州探題**や大内氏、対馬の➡ 宗氏 など各地の武士や商人も個別に通交し、多様な関係が結ばれていた。朝鮮がこうした多様な通交を受け入れることで期待したものは➡ 倭寇 の禁圧であった。しかし、

一方、江戸時代には、江戸幕府が金貨・銀貨・銭貨の➡ 三貨 を発行し、全国的に通用させた。

石高制 のもとで統一権力を確立した江戸幕府は、主要な鉱山を直轄したうえで全国的に通用する貨幣の鋳造・発行権を独占し、特定商人に 金座 や**銀座・銭座**を設けさせ、金貨・銀貨・銭貨の鋳造を請負わせた。徳川家康はまず 慶長金銀 を発行して金・銀貨の規格と品質を統一する一方、銭貨については金１両＝銭４貫文という交換比率を公定したうえで中世以来の銅銭（悪銭）を通用させた。続いて３代将軍家光が➡ 寛永通宝 （1636）を大量に発行し、幕府は４代将軍家綱の時代にかけて旧来の銭貨の使用を停止させながら寛永通宝を全国的に浸透させた。こうして 17 世紀後半には、規格と品質の統一された三貨が全国的に基軸通貨として浸透した。

もっとも、三貨以外の貨幣がすべて排除されたわけだはない。**藩札**のように、藩内でのみ通用するものであれば、諸藩が独自に貨幣を発行することは認められた。

～南鐐二朱銀の発行はどのような意義をもつか～

江戸時代には 統一的な貨幣制度がなく 、江戸中心に流通する 金貨 と上方中心に通用される 銀貨 は共通の貨幣単位を持たなかったのに対し、南鐐二朱銀は、 金貨の単位で通用する計数貨幣 であり、金貨を基礎とする金貨と銀貨の一本化、国内市場の統合がめざされた。

幕末期貿易の開始は、日本の経済にどのような影響を及ぼしたのか！

貿易は 横浜 など開港場に設けられた 居留地 で自由に行われた。当時、輸出品の中心は① 生糸 ② 茶 で、輸入品の中心は安価な➡ ① 綿織物 ・② 毛織物 ・③ 武器 であった。貿易取引の決済は銀貨で行われた。

こうした貿易はどんな影響を及ぼしたのか！

生糸が大量に輸出されたため、生糸を生産する製糸業や原料の繭を生産する養蚕業が発達した。手動の座繰製糸が北関東を中心に広まった。世界遺産の➡ 富岡製糸場 しかり。➡ フランス の技術だね。お雇い外国人➡ ブリューナ までわかればベスト。半面、西陣や 桐生 などの絹織物業は、原料生糸の不足や価格高騰により打撃をうけた。またイギリスで機械生産された安価な綿織物が輸入されると、国内の綿織物業は打撃を受けた。

流通面では、生産地の 在郷商人 が輸出品を直接開港場に持ち込み、株仲間による流通の統制と独占状態を崩した。そのため江戸への物資の供給が滞り、物価上昇を招いた。幕府は➡ 五品江戸廻送令 1860 を発したが、 在郷商人や諸外国からの反発が強く、効果は上がらなかった 。

また金銀比価の違いから　金貨が国外に大量に流出。

	金		銀
日本	1	:	５
欧米	1	:	１５

日本は欧米に比べ 銀高 であったため、（銀を持ち込み金と交換すれば儲かる）欧米商人が銀貨を持ち込み、交換した金貨を国外に持ち出した。したがって日本の貨幣価値は下落し国内の物価はさらに高騰した。

早稲田大は貨幣＋社会経済史をどう出題しているか！

早稲田大（文化構想）2014 199p～201

１．義満が明に入貢し日明貿易を求めたのは、室町幕府が自ら貨幣を鋳造しなかったので、かわりに、b 明銭を輸入し、国内で流通させるためだった。
下線 b に関連する正しい説明はどれか。
ア．建長寺船・天龍寺船によってもたらされた
イ．洪武通宝・永楽通宝・天保通宝が全国的に流通した
ウ．幕府は楽市・楽座令を出し、取引の円滑化を図った
エ．幕府は八幡船の請負商人から抽分銭を取った
オ．遠隔地間の取引に割符が用いられた

２．朱印船を東南アジア各地に渡航させるに関連する説明として謝っているものはどれか。１つ選び、マークしなさい。
　ア．1633 年に奉書船以外の海外渡航を禁止した。
　イ．1631 年に奉書船制度を改めた。
　ウ．1616 年に朱印船の渡航地を拡大した。
　エ．1635 年に朱印船の海外渡航を禁止した。
　オ．1639 年に南蛮船の長崎来航を禁止した。

➡こうして出題されると迷うのではないか！

古代～中世の経済に大きな影響を与えたのは、荘園制（荘園公領制）だった。その前提になるのは土地の私有であり、世代を限って開墾地の私有を認める【　A　】が端緒となり、墾田永年私財法によって永久に私有することが公認された。

早稲田の問題研究　2015（商）

1858 年、開港に伴い、ロ貿易が開始されたが…
問　下線部ロについて、幕末期の貿易の説明として誤っているものを１つマークせよ。
１．貿易相手国との協定にもとづいて関税率が決定された。
２．日本の主要な輸出品として、茶・蚕卵紙・海産物などがあげられる。
３．貿易取引額は横浜港が最も多かった。
４．アメリカとの貿易取引が最も多かった。
５．日本の主要な輸入品として、毛織物・軍需品などがあげられる。
受験のお約束、アメリカは南北戦争中で多忙な時期。明らかな間違いを見つければ迷うことはない。

明治時代

田畑永代売買の禁令を解き、地券を発行して土地の所有権を認めた。地券所有者しか納税者はいないのだ。
まずは、**兌換紙幣と不換紙幣の区別**。
　戦前の世界経済の基本は、➡__金本位制__でした。金本位制とは、中央銀行が、発行した紙幣と同額の金を常に保管し、金と紙幣との兌換（交換）を保証する制度です。つまり、「紙幣は紙切れですが、これは実は金〇〇グラムなんですよ。金を持ち歩くと煩雑なので紙で代用しているのであって、中央銀行へ持ってくればいつでも、金〇〇グラムと交換しますよ。」という制度です。この金の裏打ちがある紙幣を__兌換紙幣__。
ない紙幣を__不換紙幣__といいます。
　これは「金を買う」のではありません。2015 年 8 月現在で、金１ｇは 4,700 円前後を変動していますが、金本位制とは、「１円は金〇〇グラム」と決まっているのです。そして、中央銀行が市場に流す通貨の総量（マネーサプライ）は、保有している金の総量とイコールということになります。つまり、その国が持っている金（これを__正貨__という）の量だけ、お金を発行できるのです。
　これによって、貿易黒字等で国家財政が潤っている時は、正貨の保有量も多くなるため、マネーサプライは増え、逆に窮乏している時は抑えられる。このことで、バランスをとろうという制度です。
　世界的に金本位制である中で、自国の通貨が金本位制ではない、すなわち兌換紙幣ではないということは、貿易にあたって信用が得られないということになります。そこで、明治政府は金本位制を導入できるように努力したのです。

兌換と不換

　話のスタートとして、「金に交換できる紙幣＝__兌換紙幣__」
「金に交換でき**ない**紙幣＝__不換紙幣__」というのを知っておいて下さい。
〇__1871__年【　新貨条例　】円・銭・厘の 10 進法にして、__金本位制を目指すも果たせず__。（開港場では銀。国内は不換紙幣）
〇1872 年【　国立銀行条例　】➡__アメリカ__のナショナルバンクの制度に習って、有力な商人に兌換紙幣を発行させようとした。しかし兌換を義務づけると__渋沢栄一__の第一国立銀行以下__４__行しか出来ず挫折。兌換義務を免除し、雨後の竹の子状態で１５３行出来る。
1876__大隈重信__大蔵卿
兌換義務を取り除かれた国立銀行の設立ラッシュ
1877 年✖__西南戦争__➡戦費をまかなうために国立銀行に大量の不換紙幣を発行させ、インフレとなる。
どうすればインフレを鎮めるのか！赤字工場を処分する。そこで
1880➡__工場払下げ概則__　五代友厚などの登場

松方デフレ

1880 年代前半　大蔵**卿**__松方正義__による紙幣整理➡__日本銀行__（1882）を唯一の発券銀行とし、国立銀行は普通銀行へ。極端に**マネーサプライ**を減少させる。
これを➡「**松方デフレ**」という。マネーサプライとは➡__通貨の供給量のこと__
　農民は春にはインフレの中、高額で肥料などを購入していながら、秋にはデフレで農産物価格が暴落しているということになる。今なら、収入に応じて納税額が決まるが、当時は➡「__地価の３％__」であった。このため地租が払えない中小農民が没落して小作農となり、逆に余裕のあった有力農民は土地を買って寄生地主となった。「**松方デフレが寄生地主制を確立させた**」と言われる所以である。
★驚くべき事実、当時地租＝税金を払っていたのは地主だけだ！松方や伊藤博文は払っていない。だから民党と政府の対立は激化する。

1880 年代後半　日本銀行は 1885 年から銀兌換券を発行し、日本は銀本位制を確立。物価は安定した。貿易は輸出超過（黒字）となり、松方デフレで金利が下がると、
➡__鉄道　と　紡績　を__中心に会社設立ブームがおこった。（企業勃興）代表的な企業名は頻出。

明治前期はガラ紡が一部地域に広がったものの、綿糸の輸入拡大に圧迫されてふるわなかった。ところが、渋沢栄一の__大阪紡績会社__1882 が大規模経営に成功すると、1880 年代後半から株式会社の設立ブームが生じ、機械紡績が普及した。原料の綿花は__中国__や英領__インド__などから輸入して生産を拡大し、国内の綿織物業へ綿糸を供給した。

○1890 年　ブーム(企業勃興)の反動で、株価が暴落。日本最初の恐慌がおこる。
○__1897__年➡__日清戦争の賠償金__をもとに、念願の__金本位制確立__この時に制定されたのが➡（__貨幣法__）は盲点だ！

○1890 年代後半　日清戦争後、鉄道・紡績などで企業勃興再発。
繊維産業を中心に➡__資本主義__確立。しかし・・・。日本が清に勝利したということは中国が日本の有力な市場となったということでもある。
○1900 年　紡績（綿糸づくり）のためには、原料となる__綿花__が必要であり、この大量輸入のため__正貨__が流出。資本主義恐慌となる。(恐慌とは、不況が深刻化し経済が混乱する状態)
○✖__日露戦争　後__（1904～1905)。日本は戦費を内債と外債（外国からの借金）でまかなっており、この外債の利払いと、紡績の原料綿花の輸入（__インド__から）で、正貨が流出。朝鮮や満州への綿布の移出や輸出は増加したが、➡__貿易収支は大幅な赤字__であり、日本経済は危機的状態となる。
　この状況を救ってくれたのが、第一次世界大戦であった。
○１９１５～１９１８年__大戦景気__日本は世界第３位の海運国となり、➡__船成金__が生まれた。**貿易収支は➡__黒字__（__輸出超過__）となる。**この流れの中、中国に日系資本の紡績工場➡__在華紡__が出来る。

金輸出禁止

○１９１７年　第一次世界大戦が始まると、欧米諸国は金兌換を停止。(金への交換が殺到すると、国内から正貨が流れ出すから。紙幣は所詮紙きれ。みんな金に代えたい。）これを受けて日本も金兌換停止＝（__金輸出禁止__）。
○１９２０年➡__戦後恐慌__大戦が終わり、欧米諸国がアジア市場に復帰すると、株価暴落。綿糸・生糸相場半値という恐慌となった。ここから、長い恐慌の歴史が始まる。
○１９２３年➡__震災恐慌__関東大震災で京浜工業地帯が壊滅。大量の手形が決済不能となる。この__関東大震災によって決済不能となった手形__を__震災手形__という。日銀からの非常融資でしのいだが、この震災手形の処理がこの後の課題となる。
○１９２７年➡__金融恐慌__震災手形の処理を巡って蔵相片岡直温が、まだ休業してなかった（というより資金繰りに成功して危機を乗り切りつつあった）「渡辺銀行が休業した」と失言したことにより、渡辺銀行は本当に休業に追い込まれる。ここから、銀行にたいする不安が高まり、預金者が預金の引き出しに殺到する➡__取付け騒ぎ__がおこり、中小銀行がバタバタと倒産（休業）する__金融恐慌__となる。
　さらにこの時、第一次世界大戦中の急成長した➡__鈴木商店__が倒産。三井や三菱のような自前の銀行を持っていなかった鈴木商店のメインバンクは、__台湾銀行__であった。
一時、三井を凌いだ鈴木商店の倒産は、そのまま大量の不良債権を抱えることとなった台湾銀行倒産の危機となった。
　台湾銀行は台湾経営のためにつくられた政府系銀行であり、メガバンクの危機を救うために、第一次__若槻礼次郎__内閣は日銀からの非常融資を行う「**台湾銀行救済勅令案**」を出す。しかし、幣原協調外交に反対の➡__伊東巳代治__を議長とする➡__枢密院__はこれを拒否。事態収拾の見通しを失って、内閣は総辞職した。
　ついで成立した__田中義一__内閣は、緊急勅令の形で**３週間のモラトリアム**（支払猶予令。銀行が３週間預金者に支払いをしなくてもよい）を出し、この間に裏の印刷していない多量の紙幣（**裏白紙幣**）を発行して、銀行に配りまくり、金融恐慌を収束させた。
　金融恐慌の結果、預金者の預金は「倒れそうにない銀行」すなわち**五大銀行**（三井・三菱・住友・安田・第一）に集中するようになった。
※このころ・・・。第一次世界大戦後、復興した欧米諸国は金本位制に復していた。しかし、日本は大戦中に肥大した工場の国際競争力がなく、恐慌のたびに日本銀行券（つまり通貨）を増発して一時しのぎをするという政策のためインフレが続き、金本位制に復せないままであった。そのため円に信用がなく、為替相場は不安定であった。
　そこで財界から、金本位制に戻し（金輸出を解禁し)、産業合理化を図って国際競争力をつけようという要望が強まっていた。
○１９３０年　金輸出解禁→昭和恐慌　浜口雄幸内閣は蔵相__井上準之助__のもと、金輸出解禁を断行。為替相場の安定と経済界の整理を図った。
　井上準之助財政のポイントは、
（１）緊縮財政による物価の引き下げ
（２）産業合理化（重要産業統制法／1931）による企業統合と国際競争力の強化
（３）金輸出解禁による為替相場の安定と経済界の整理
である。
　しかし、前年、アメリカのニューヨーク・ウォール街の株価の暴落から始まった世界恐慌の中での金輸出解禁は、流れに逆行するものであり、正貨が大量に流出することとなった。
　アメリカの不況は、そのままアメリカ向け輸出の中心であった生糸を直撃。生糸生産農家は大打撃を受けた。(生糸は贅沢品だから、不況になったら売れないでしょう。）しかも農作物価格も暴落し、農村は「欠食児童」「女子の身売り」という言葉に代表される危機的状況となった。
　一方、都市部では不況による倒産と産業合理化によって失業者が増大。彼らの帰農が、さらに東北の農村の窮乏に拍車をかけることとなった。
　この、都市部と農村部を同時に襲った未曾有の経済危機を昭和恐慌という。
○１９３１年　金輸出再禁止→管理通貨制度へ　浜口内閣の後成立した犬養毅内閣は、蔵相高橋是清とともに、金輸出再禁止を行い、これより日本は今日に至るまで管理通貨制度となる。
　高橋是清財政のポイントは、
（１）浜口内閣の産業合理化のもと、競争力をつけてきた産業界は、円安を利用して輸出を促進→綿織物輸出世界第１位（イギリスを抜く。これに対しイギリスは「ソーシャル・ダンピング」（不当な低価格）と非難するとともに、ブロック経済圏で対抗。
（２）赤字国債を発行して軍事費を増大させる膨張財政で、内需拡大

である。

これによって１９３３年には、欧米諸国に先駆けて、世界恐慌以前の生産水準を回復した。※このころ・・・。満州事変が勃発し、日米関係は悪化していった。しかし政治的な悪化とは対照的に、紡績や綿織物に必要な綿花や石油などの輸入といった、アメリカへの経済的依存は、強まっていった。

イギリス・フランスという植民地を持つ国が、本国と植民地の間で取引をし、他国を締め出すというブロック経済は、日本やドイツ、イタリアという植民地を持たない国を追い込むことになる。

日本は市場をアジアに求め、円ブロック圏を構築しようとし、ますますアメリカと対立することとなった。